

看板が
できました!

認定 NPO 法人
とちぎボランティアネットワーク

フードバンク
うつのみや

F B 通信

うつのみや

⑬ -2020/2/25- ///2019年1月15日創刊///

NPO法人フードバンクうつのみや

TEL 028-348-3412 URL <https://fbu2189.org>

FAX 028-623-6036 栃木県宇都宮市埜田 2-5-1 共生ビル 1階

きずなセット 1100 セット提供



「やればできるんだ!」

コロナ禍での新たな活動

木下 一成
(副理事長)

■コロナ= ‘災害’ の1年を振り返る。

昨年は東日本台風(19号)の被災地支援のため、2~4月、栃木市に臨時支所を設置して、栃木市や宇都宮市の被災者中心に約500箱の食品セット「きずなセット」を提供しました。その真っ只中で新型コロナウイルスが感染拡大し、4月には緊急事態宣言が発出。徐々に経済弱者へしわ寄せがいくことは容易に想像できました。私たちはこれも「災害」であると捉えています。いつもの活動に加えて、もう一段、ギアチェンジし、一歩踏み出した活動をするべきと決意して走り出しました。

「きずなセット」提供活動は6月からスタートし、約月1ペースで、12月までに計8回行いました。そして、栃木県内の学生やひとり親家庭を中心、何と計**1100セット**もの提供ができました。申込アンケートから、特別に支援が必要だと判断した場合は個別支援も行いました。活動資金やボランティア集め、会場準備や配送の手配など、若いボランティアスタッフが頑張ってくれました。新たな活動であり、スピード感も必要でし

たが、「やればできるんだ!」と私は毎回感動していました。

コロナ禍の1年は、ありがたいことに食品のご寄付も増加しました。一方で利用者は**1日平均4~5人、年間**



1200人を超える見込みであり、例年に比べ**食品取扱量は3倍増**となりました。今後は食品の保管も課題です。企業と連携して米の保管したり、泉が丘支所も活用したりしながら何とか乗り切ってきましたが、近々に飽和状態になることは目に見えています。

■ワクワクする1年を送りたい!

今年は新たな段階に入っていかなばなりません。10月に私から交代した伊東新事務局長の下、食品ロスの削減と総合生活

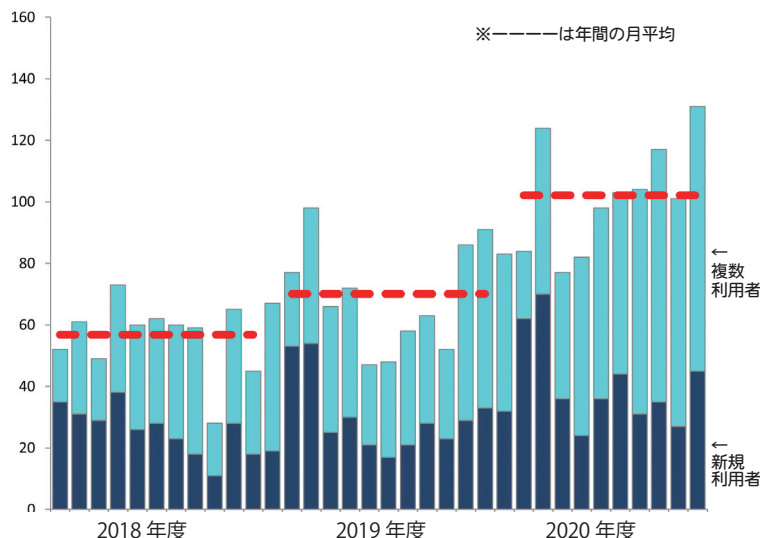
相談支援の両輪をさらに発展させていくため、常駐職員の雇用、新規ボランティアのコーディネート、会員募集や寄付集め、助成金獲得など、やることは盛りだくさんです! 共に頑張りましょう。考えようによっては、ワクワクする1年になるのではないかと密かに妄想に耽っています。おっと! 3密はいけませんので、それは気を遣って活動しましょう。

増えています。相談者

フードバンクの相談者を年度別にグラフにしました。

年度ごとの月平均は、2018年度は57人、2019年度は70人、2020年度は102人。年間の月平均は近年大幅に増えています。1日に4~5人の相談者が来所していることとなります。理由は①フードバンクの認知度が上がったこと、②実際にコロナ禍で困窮する人が増えたこと、③一度の支援では生活が立ち直らないことの3つかな。

コロナ×F Bの認知度×複数支援



今月のSOS

FB 相談世帯数（食品提供回数）

12月 28世帯（支援 167回）

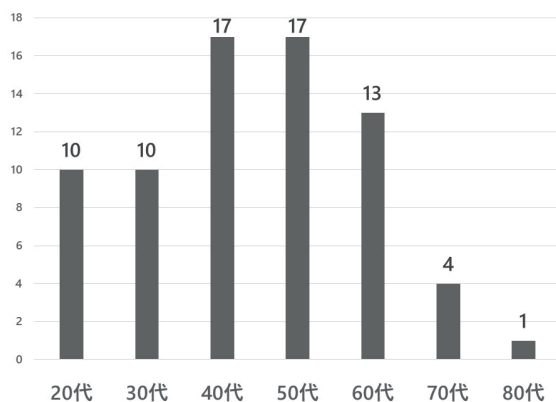
1月 45世帯（支援 146回）

※福祉施設等への食品提供も含む

FB 主な利用理由(2020/12-2021/1)* 複数回答・総数 72人

失業・就職 47	低年金・生活保護	病気・障がい		
	41	14		
47	家賃滞納	精神疾患	金銭管理	離婚
	11	8	7	5
				介護 3

FB 年代別 相談者数 (2020/12-2021/1)



今月のSOSの一部

※ FB 利用者の状況を一部加工して掲載。

12月 28世帯（複数支援 37回）

12/2 ● IS 男 20代・県内。スリランカ出身の専門学校生。東京のレストランでアルバイトしていたがコロナで働けなくなった。故郷へも帰れない。友人からFBを紹介された。⇒米 3 kg 食品 5 kg 支援。

12/4 ● SY 女 30代・宇都宮。小中学校の子ども2人と暮らす。夫が自分勝手すぎるた

め離婚。養育費をもらう取り決めをしたが、不定期になっている。パートの仕事と養育費で生活しているが、コロナの影響で出勤日数が減っているので生活が苦しい。⇒米 10 kg 食品 8 kg 野菜 2 kg 支援。

12/8 ● KH 男 40代・宇都宮。他県で生保利用していたが、1年前に脳出血を発症し、今は特養に入所中の母親の近くに住みたいと思い、生保辞退し宇都宮へ来た。実家の県営住宅は母親のみの契約なので住むことが出来ず、公園で寝泊まりせざるを得ずホームレス状態となった。⇒冷凍パン 2 個提

供。食品 1kg 支援。⇒● 12/11 アパート見つけからず、不動産紹介した。食品 3 kg 支援。

12/18 ● KM 男 50代・宇都宮。1ヶ月前に寮付きの仕事を辞めた。以後、ネットカフェで過ごした。手持ち金無くなり知人の弁護士同行にて生保申請。⇒食品 4 kg 支援。

12/24 ● TM 女 30代・宇都宮。母親が家を出て行方不明となり現在独り暮らし。母には着信拒否されている。訓練用の犬を預かっており、自身の食費を削って犬の世話をしている。調理経験が無く、今までもコンビニ弁当を食べていた。障害年金のみの収入。⇒食品 6 kg 支援。

FBでたすかりました

時間をかけて話を聞いてもらい、勇気が出ました。

山口美香子さん（仮名：45歳 / 宇都宮）

数年前から個人事業主をしています。コロナの影響で事業が行き詰まり、収入が激減しました。持続化給付金は足りない書類があり、まだ受け取れていません。生活保護の相談に行きましたが、自宅は事務所としても使っているため家賃が基準より大幅に高く、受給は認められませんでした。

FBに相談したところ、事業のため取っておいた商品の在庫を少しでもお金に変えようと提案され、段取りまでしてもらいました。気持ちがとても落ち込んでいたので、食品をもらい、時間をかけて話を聞いてもらって「人間扱いしてもらった」と勇気が出ました。もう一度生活保護の窓口に行き、事情を説明して、今は一時的に生活保護を受けることができるようになりました。お世話になりました。



1月 35世帯（複数支援 63回）

1/5 ● SK 男 50代・宇都宮。生活保護で生活していたが、ゲームに依存してしまい金銭管理が出来なくなった。生活が苦しくなり万引きをし、約1年入所。突然の逮捕だったため家賃を2年間滞納してしまい、大家から「出て行け」と言われている。ライフライン止まっている。⇒冷凍パン 5 個 食品 2 kg 支援。

1/7 ● OK 女 20代・宇都宮。清掃の仕事だが、コロナ禍で仕事量が激減した。今年、引越し予定だったがお金が無く入居できなくなった。車上生活を3日ほど行っている。⇒冷凍パン 5 個。調理のいらぬ食品 3 kg 支援。

1/13 ● AM 男 40代・宇都宮。派遣社員だ

S O S の途中

**病気がありながらも、
妻を最後まで看護。
同じ病院に入院し…**

立野 重明さん（仮名 54歳）

1月の終わり、立野さん（仮名）は久しぶりに顔を出した。働いている工場が2週間ほど閉鎖になった。話を聞くと、夜間稼働している工場に働く派遣社員は外国人が多く、その中の数人がコロナ感染。工場内でのクラスター発生となってしまったようだ。今週やっと操業を再開。しかし、給料は週払いだ。今日までは手持ちのお金で何とか凌いできたが、明日からの食費がない。

初めてFBを利用したのは2年前の冬。社協職員からの紹介だった。病気の妻と、知的障害がある義理の息子との3人家族だった。妻はがんの手術を行い、1年間入院治療した。食べる機能が失われたため、お腹に胃までのチューブで直接栄養をとる胃瘻（いろう）を造設した状態で自宅に帰られたようであった。抗がん剤の注射のため毎週1回バスと電車を乗り継いで通院する必要がある。病気の妻の看護に専念するため仕事ができなく、「明日妻を病院へ連れていく交通費が無い」と言ってFBを利用した。

最初の食品支援から2日後、「テレビを売って電車賃をつくった。病院へ連れて行ってきたよ」と再び訪れた。社協との相談の結果、近々生活保護の申請に行くとのこと。私（小澤）は、一時的な食品支援で何とか落ち着くものと考えていたが、以後しばらくは立野さんがFBを訪れることになる。

1か月後には、生活保護を利用できるようになったが、息子がボヤ騒ぎを起こしてしまった。息子を措置入院させ被害者宅の見舞金を渡すなど「火消し」に奔走しなければならなかった。病院では家まで看護師が来てくれる訪問看護の話がされたが、イメージがわからなかった

◇生活困窮者自立支援制度…市社協が事業を受託している。生活に困窮し、最低限度の生活が維持できなくなるおそれのある方のために、相談支援窓口を開設している。相談支援員が、個別の相談内容に応じた支援プランを作成し、市や関係機関による福祉サービスの活用により、困窮状態からの脱却に向けた継続的支援を行う。（参考：宇都宮市HP）

◇在宅医療…在宅・訪問診療では、自宅が診察室であり病室である。医師が自宅を訪問して患者の診察と治療を行う。通院することが難しい・悪性疾患などで自宅療養したいと希望する人に対して、その意思を最大限に尊重できるよう、家族も含め、医師や訪問看護師、ケアマネジャー、ホームヘルパー等の在宅支援チームで支える。（参考：宇都宮協立診療所HP）

★新型コロナウイルス感染症の影響で、収入が減少し生活に困窮する方がいたら、生活費が必要な方への「生活福祉資金（緊急小口資金や総合支援資金）」、住まいを失うおそれがある方への「住居確保給付金（2021年3月末まで）」の申請が可能です。申請は市役所や社会福祉協議会の窓口から。（情報 2021/2/25 現在）



小澤勇治 ● 本会職員

がコロナ禍もあり勤務できず。子ども2人は保育園に入れておらず妻が自宅で保育しているため就労していない。昨日ガスが止まった。⇒米5kg食品野菜10kg支援。
1/13 ● TT 男 60代・宇都宮。年金のみでは夫婦生活できず。年金とアルバイト収入で生計を立てていたが、コロナ禍で収入減となる。妻はスペイン国籍で、病気のため治療中。家賃は息子が出してくれていた。⇒米3kg 食品9kg 支援。息子が独立することで生活保護の申請ができた。
1/14 ● IS 男 40代・宇都宮。ホテルで働いていたが昨年5月から自宅待機となり9月解雇された。人間関係に問題がある。

仕事を探すのはコロナ禍の影響で難しい。
⇒米3kg食品3kg支援。
1/16 ● CN 女 50代・宇都宮。飲食店で働いているが約1ヶ月間、仕事ストップされている。⇒米5kg食品6kg支援。
1/23 ● HY 女 20代・宇都宮。きずなセット配送時のアンケートに「心療内科探している」とあったので連絡。経済的困窮はないが精神面の不安定さが出る時がありつらい。⇒食品1kg支援。よりよいホットラインを紹介。たまにボランティアに来るよう誘う。
1/26 ● FK 男 50代・宇都宮。母と一緒に飲食店を経営してきたが、母が高齢により店

ようだ。FBに来所したとき、家で病院と同じ「治療」ができるのかと聞いてきたので、「在宅医療」という医療があることを説明し、私が以前働いていた診療所の医師や看護師に相談してみるように伝えた。私は、入退院を繰り返している妻の様子を聴きながら、在宅医療へつながる相談ができるかどうか考えていた。以後、頻繁に食品を求めようになった。基本的にFBうつのみやでは、生活保護利用者は食品の支援をできない（生活保護費があるため）ことを話したうえで、フルーツ缶詰やジュース類、レトルトのお粥などを少しずつ渡した。立野さん本人はその間、自殺未遂を1回。長らくうつ状態にあるようだった。

そのようなやり取りが約半年続いた。

その後2か月ぶりの来所では、「妻が亡くなった。葬儀は済ませた」と。立野さん本人は1か月前に意識を失い、4日間の緊急入院をした。昏睡状態だったため、気管内挿管の医療的処置が行われたらしい。その後、落ち着いたため妻の入院する病院の精神科へ転院することができ、妻の最後を看取ることができたとのこと。葬儀と四十九日に合葬のため、息子が精神科病院を一時退院してきた。その息子が際限なく食べるため食品が足りない。

妻の療養に向き合った足掛け3年間。現在は、生活保護から自立し、うつとてんかんの薬を飲みながら、派遣労働者として生計を立てている。息子はグループホームで暮らすようになった。立野さんを支えた「生活困窮者自立支援制度」と「生活保護」を元に、必要な医療制度があったからなのだと感じた。

を閉めた。その後母の介護に専念した。母没後、日雇いの仕事をしながら生活。コロナ禍の影響で仕事もお金も無くなった。生保申請相談に行くが、車や家の処分などを言われ、もう死ぬしか無いと思っている。⇒米3kg食品1kg支援。
1/26 ● KK 男 40代・宇都宮。窃盗で逮捕。拘置所から出たばかりで住むところがない。自立センターに行きたいが空きがない。生保相談に行ったところ、物件を探してきてと言われた。⇒食品3kg 支援。不動産会社紹介した。

フードバンク応援団！

このコーナーでは、フードバンクの団体会員に入会していただいた企業・団体を紹介します。

「食卓を笑顔に、地域を豊かに。」 店頭フードドライブ & きずなBOX 11か所設置

とちぎコープ
総合企画室
小野田 ひかるさん



食卓を笑顔に、地域を豊かに。

「食卓を笑顔に、地域を豊かに。」とちぎコープ生活協同組合は、一人ひとりの消費者が、くらしのさまざまな願いを協同し、たすけあひながら実現してゆく消費者の組織です。フードバンクとのお付き合いは、活動立ち上げの頃からになります。まずは寄付された食品を保管する場所が必要ということで、とちぎコープ本部の一角を提供させていただくことから始まりました。2014年秋に店頭イベントでのフードドライブを開始。今では4つの店舗と7つの宅配センターに「きずなBOX」を設置し、組合員が食品を持ち込むかたちで受け付けています。これからも地域に笑顔を広げる活動を一緒に行ってまいりましょう。

●とちぎコープさんにはFB うつのみやの設立時から多くの力添えを頂いています。これからもよろしくお願ひします。(徳山)

ボランティアにとっての「会議」とは？

みんなで考える・まとめる・振り返る。

ボランティアの面白さ 菊池順子 (困窮者の相談ボランティア・60代)

かつての災害現場での事。有志でボランティアに行ったが、「初心者連れでないよ!」と言われ、ショックを受けた。非日常の現場ではいろんなトラブルが起きる。その為に一日の終わりに必ず振り返り、すっきりさせ、次の日に向かう。

FBも日々、様々なボランティアが来るが、振り返りはやっていない。毎週木曜日にミーティングをやっている。是非そこで振り返りをやり、みんなで考え、みんなでまとめて次へとすすめたい。その繰り返しボランティアの面白さだし、仲良くなるきっかけだと思う。最近は新しいボランティアも増えてきたので、「ミーティングに参加してちょっと得したな!」と思えるような会議を目指したい。

日々の活動の延長線上に、いつ来るかわからない災害がある。「みんなで考え、振り返ること」はどんな場でも重要だ。災害現場では初心者でも、ふるまいだけはボランティアの上級を目指したい。



会議は
毎週木曜
14時~

「恒にトクになる」 泉が丘支所を目指したい!

釜井 直人 (泉が丘支所オーナーの息子・30代)

私の祖父(恒男)・祖母(トク)が住んでいた家が10年程空き家になっていたため、フードバンクうつのみや泉が丘支所としてお貸しして以降、団体の活動にも参加させて頂いています。

泉が丘支所の常駐作業やフードドライブ、食品管理など様々な作業に関わっています。

昔は、正月に親戚揃っておせちを食べていた思い出の部屋で、きずなセットを作り生活に困っている方に配布したり、人の為になる仕事をしていると思うと感慨深いものがあります。

釜井家、改め泉が丘支所を今後も困っている人に向け「恒(つね)にトクになる」活用をしたいと思います。



◀泉が丘支所。
2月現在は土曜 10-16時に
開所しています!
(宇都宮市泉が丘 3-4-5)

FBボランティア募集

●問 /028-348-3412

・食品回収ボランティア

スーパーマーケットや施設に置いてあるきずなボックスの食品の回収や、寄付の玄米の精米で、車(軽バン)を運転します。(現在2人)

・困窮者聞き取りボランティア

FBに「食品ほしい」と来る人の話を聞きシートに記入します。不安な人は研修も受けられます。1回2時間、週1・2回程度。★大募集(現在3人)

・食品管理ボランティア

入庫した食品の賞味期限を確認し、期限ごとに食品棚に並べます。相談者へ渡す食品も準備します。週に1~2日、2時間から4時間ぐらいが目安です。(現在10人位)

会員・寄付者

ありがとうございます

2/25 現在:正会員28人、賛助56人、団体5、学生サポ2人

《12-1月の新入会員》

- 正会員 / 原隆、飯塚真弘、谷仲久美子、大泉和也、佐藤治
- 賛助会員 / 菊池順子、羽石洋子、藤咲健司、塚原綾子、釜井直人、高崎至子、小松山悦子、北島さやか、渡辺明里、高木敏江
- 団体会員 / 有限会社クイーン洋菓子店、㈱日本栄養給食協会、宇都宮農業協同組合 (JA うつのみや)

《12-1月の寄付者》

宮村尚、横田友子、恵光寺、小松原美来、岩井公香、有限会社クイーン洋菓子店、宮下弥生、八洋、カトリック峰教会、村上八郎、屋代あゆみ、ヤスノクミコ、㈱日本栄養給食協会、田原奈緒子、塚原砂恵、鈴木澄子、猪瀬智子、飯塚真弘 ※敬称略



「もったいない」を
「ありがとう」に。

会員を大募集中!

◆会費(年間)

- ◎正会員 12,000円
- ◎賛助会員 3,000円
- ◎団体会員 30,000円
- ◎学生サポーター 1,000円

HP



Twitter



会費・寄付はこちら
※匿名希望の方はご連絡ください

■銀行

栃木銀行 馬場町支店 普通 1086399
信義 / 特定非営利活動法人フードバンク
うつのみや 理事 徳山篤

※領収書発行のため、メール・電話で、氏名と連絡先をご一報ください。

■郵便局

宇都宮 00260-2-90882 特定非営利活動
法人フードバンクうつのみや

■Web サイトから

クレジットカードでのご寄付もできます。